

第15回 新型コロナウイルス感染症対策本部会議（要旨）

日時：令和2年3月23日（月）15:00～

場所：401会議室

【協議事項】

1. イベント中止・施設閉館の今後の見通しについて

事務局（地域安全課）：専門家会議の内容抜粋資料の説明。全国、愛知県の感染者、死者数。

岐阜県各務原市、可児市での感染者の件。学校、未来園、児童センターの利用状況。

・学校の対応について

副市長：3/18の国の専門家会議の結果、なんとか持ちこたえているが、一歩間違えるとオーバーシュートの可能性があり、危機感を持つような内容で、施設、イベントについても、感染状況に応じて判断していくとのこと。この内容を国と都道府県が協議して決めしていくとある。大規模なイベントについては主催者の判断に委ねるといった状況
また、今週中に文科省が学校については、休業を延長しない方針を出すとのこと。
まず、学校について教育委員会の方向性としてはどうか。

教育長：臨時休業については3/31、自主登校教室については3/24をもって終了。

小学校の入学式は4/8に縮小で実施。始業式は4/9から対策を講じた上で行う。

中学校の入学式は4/7に縮小で実施。始業式は4/7に1年は午前、2・3年は午後。

それぞれ集団を形成しないように実施。

給食は、全学年4/10から開始。

学校行事については、できる限り延期していく方針。だが、課題もある。

3月中の授業中止分については、中学校や次の学年にて補充していく。

部活動開始時期については、検討中であるが協議していただきたい。

副市長：4月以降通常通り開けていくのであれば、検温、消毒など対応は考えているか。

教育長：もちろん、対応方針は考えている。

市長：まず、前回の会議で伝えたが、学校が再開する際、どういった備えをして再開していくかという内容を保護者にわかりやすく「見える化」していくかが最大のポイントだ。

国の情報など再開の根拠や再開後の対策を市民に見せて安心できる内容とすること。

副市長：部活は、屋外限定の話か。

教育長：学校としては、体育館内もやりたいという気持ちはある。愛知県内でも、一部緩やかに部活動を再開しているところはある。部活動の実施にあたっても、密集しないように対応していく。

市長：何度も言うが、部活動の実施も、どう保護者に伝えていくのかの詳細は詰めること。

「見える化」がもっとも大事。

副市長：市長指示のとおり、根拠や具体的な対策をわかりやすく保護者に伝える内容は教育委員会で検討すること。そのうえで、小中学校の入学式、始業式等の実施については、

この方向で進めることを本部の決定としてよいか。

市長：了承。

・公共施設等の再開について

副市長：国の見解を見る限り、警告であり、まだクラスター発生源となる恐れがあるため、慎重に考える必要がある。愛知県の状況を明確に示していない。

ただ、外の施設に関しては、開けてもいいかと考えている。何か意見は。

経済環境部長：情報提供。名鉄3園については3/20から再開。自己申告のもとで入場を判断し、密閉状況でのイベントは中止している。屋外に限って実施している。

経営部長：休日にするすみ広場と木曽緑を確認したが、人が非常に多かった。車を見たところ、するすみに関しては、多方面から来ているようだった。

経済環境部長：開く限り、人の往来は避けられない。

副市長：状況が刻々と変化しており、18日に実施した会議とは状況が変わっている。現時点では決められない。とりあえず屋外のみ開放し、屋内については、4月中旬まで閉めるという考え方もある。

いずれ、イベントや施設を再開していくとして、検温や消毒など必要な対策のための資機材が揃わない可能性が高い。現実に目を向けたうえで、どのような態勢で開いていくのか、よく認識して判断するように。

経済環境部長：ゴミについて、美化センターの市民搬入も止めている。そこについては、今日の会議を踏まえて、4月から解放していいのではないかと考えている。

副市長：屋外の施設や市民の生活に直結する施設については、開放していいのではないか。

市長：画一的に捉えるのではなく、中身で段階的に見ていい。ただし、その判断材料として、現状を分析していく必要がある。再開も中止も市民への説明は必ず必要。とにかく判断の根拠を明確にすること。

一方で、周辺の市でも多く感染者が出てきている。爆発する可能性をはらんでいるということを自覚しなければいけない。もう少し慎重に判断した方がよいと考えているが、市民生活に影響があるものについては、明確な根拠をもとに判断し、少しづつ開放も考えていいと思う。

副市長：開けてもいい施設とそうでない施設の判断を再度検討してほしい。やみくもに開けるのではなく、3つの条件にあてはまらない場所を選定して判断してほしい。また、開く判断をした施設は、どのような対策を講じた上で開くのかも検討してほしい。

子育て監：予約はどうするのか。

副市長：再開と連動するが、受付は、感染が広がらないような方法で行うことが大前提。段階的に開けていけると考えているのは屋外の施設及び、閉め続けると市民に悪影響ができる施設（美化センター等）。

教育部長：今後の判断時期の目安はいつごろになるのか。

副市長：今の状況からすると、4月に入ってからの2週間が目安ではないか。

市長：今後もどうなるかわからないし、外出抑制状況である。何度も言っているが、明確な根拠がないと市民へは伝えられない。開く際の対策や見える化を徹底してほしい。

教育長：感染の状況によっては、臨時休業等の判断は随時していく。

部活については、4/1 から、屋外に限って再開するということにする。安心して活動できる状況で実施していく。

【その他、共有事項】

- ・感染者等への生活支援について

健康福祉部長から東海市の状況及び当市も同様の対応準備を進める報告

- ・備蓄マスクの市内医療機関への配布報告（健康推進課）

- ・県内の感染症指定医療機関の指定状況の報告（健康推進課）

- ・感染者が出た際のフロー資料作成の指示（副市長）

- ・「新型コロナウイルス関連による経済対策などの施策」について（経営部長）

副市長：最後に、施設等の再開に向けての理由は資料を見直すため、一度白紙に戻す。各課照会については、明日中に報告し、明後日に事務方のみで再協議を行う。

市長指示

- ・議論する内容は明確にして会議に臨むこと。会議で出た内容は次の会議の中でしっかりとフィードバックすること。
- ・情報の見える化を徹底すること。